

2013 年度 第 2 回 鋼構造制振小委員会 議事録

- 1 . 日時** 平成 25 年 7 月 29 日(月) 14 時 00 分 ~ 16 時 30 分
- 2 . 場所** 建築会館
- 3 . 出席者** 緑川光正, 石井正人, 笠井和彦, 金子洋文, 加村久哉, 木村祥裕, 髙裕治, 田中 清, 玉井宏章, 松岡祐一, 中込忠男, 引野 剛, 山下哲郎, 山西央朗(オブザーバー)(敬称略), 宇佐美徹(記録)
欠席:井上一朗 (敬称略)

4 . 配付資料

- 02-01 2013 年度 第 1 回 鋼構造制振小委員会 議事録(案)(宇佐美)
02-02 査読回答書(1 章, 2 章, 5 章, 7 章, 8 章, 9 章, 付 1, 付 5)
02-03 査読意見および査読回答書(3 章, 4 章, 6 章, 付 2)
02-04 序原稿(緑川主査)

5 . 議事内容

- (1) 資料 02-01 に基づき前回議事録の確認がなされた .
- (2) 資料 02-02~05-03 に基づき, 各委員より査読回答について説明がなされた . 主な修正箇所は以下の通り .

	査読者	番号	内容
全体	竹内 一戸		・ 他文献から引用した記号は原文のままとする旨を記述 . ・ 『鋼構造物の座屈に関する諸問題 2013』を指針に引用する件については, 査読依頼後に出版されたので, 今回の指針には盛り込まず今後検討する旨を記述 .
1 章	竹内	1	・ 修正意見に対応した表現に修正 .
		2	・ 解説に記述する .
	一戸	10	・ 木村委員と相談し修正する .
3 章	竹内	3	・ 施工は対象外であることと実験の仕様は記述がある旨を追記 .
		4	・ 鉄連の文献を参照し修正 .
		5	・ 4 章と表現を統一 .
		18	・ 文献 7)-10)でリーズナブルなものを選択 .
		25	・ 実験で安全性を検証する旨を追記 .
	一戸	37	・ 接合部係数を使用する旨を追記 .
4 章			・ 累積塑性率の表現はやめる . ・ 支持部は支持部材に統一 .
	竹内	4	・ 鉄連の文献を参照し修正 .
		14	・ 表現を修正 .

		15	・ 座屈拘束ブレースのことは記述しない。
		20	・ 座屈を生じない場合はパネル中央部での亀裂を生じない旨を追記。
		39	・ 図を修正。
		43	・ 再度検討のこと。
	一戸	2	・ 実験方法の説明を追記。
5章	竹内	3	・ 制振構面の梁・柱の接合部に修正。
		4	・ 滑り耐力と欠損を考慮した降伏耐力が対象なので、分かる表現とする。
		6	・ 解説を加筆。
6章	竹内	1	・ モデルを増分解析にも使う旨を追記。「剛性・耐力に関し、」3章は追記済みで、4章に追記すること。
		2	・ 座屈拘束が不十分なブレースは対象外。
	一戸	2	・ ‘耐力が低下する’に修正。
		17	・ タイトルが“・・・の配慮”は“・・・の考慮”に修正。(指針全体)
7章	竹内	1	・ 歪硬化係数はやめ、降伏耐力の 倍とする。
		3	・ 修正しない。
8章	竹内	4	・ 移動しない。
9章	竹内	5,6	・ 決められない。経済設計の観点からそれほど無駄には入れない。
		7	・ 主架構は概ね弾性の表現とする。
付1			・ ……実験方法(案)にタイトル変更
	一戸	11	・ 問題なし。
		16	・ 対応しない。
付5	竹内	3	・ 塑性率は示すこととする。
		5	・ 再検討はしない。
	一戸	17	・ 付5.3に修正。
		26	・ ヤング係数の表示は $2.05 \times 10^5 \text{N/mm}^2$ に統一。

(3) 資料 02-04 に基づき、序について緑川主査より説明がなされた。

- ・ 本指針の特徴に(4)を追加する。
- ・ 補足事項に、製作、施工、維持管理、交換は他書参照の旨に修正。

6. 今後について

- ・ 索引は構造本委員会査読中に各担当で抽出する。
- ・ パブリックコメント構造本委員会査読中に実施。
- ・ 回答書、修正原稿は Aipo で一元管理する。
 - ◇ 回答書:共有フォルダ内の 6 運営委員会査読回答のフォルダ
 - ◇ 修正原稿: 共有フォルダ内の 0 原稿(5月以降)のフォルダ
- ・ 各作業締め切り
 - 回答書: 8/16(金)
 - 修正原稿(荒原稿)提出: 8/23(金) 鋼構造運営委員会査読者承諾:8/29(木)
 - 構造本委員会提出用原稿: 9/7(土) 伏見さんを通して本委員会査読者へ

査読結果を受け，幹事会(12/15，16)と小委員会を開催

・ 次回は2013年12月16日(月)，14:00より建築会館で実施．